

学年末考査終わる

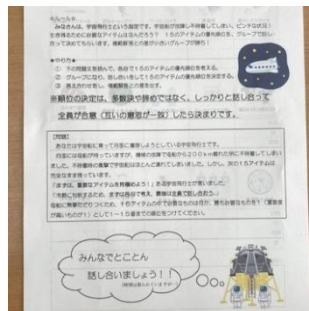
令和6年度の3学期末考査すなわち学年末考査が終了しました。1年間の仕上げの時です。期末試験ともいいますが、考査と試験の違いを不意に考えてしまいました。

諸説あるようですが、“考査”にはもともと考えるとか調査するという意味があるようで、学力の到達度を調べるというところから、考査という単語が使われたようです。試験は「ある物事の性質や性能などをためしてみること。また、検査すること」と謳っている辞典があります。考査も試験も、問題を与えて解答させ理解や程度を調べることを言うのですが、“試験”は解答させるだけでなく、実技をさせる場合も使う点が“考査”とは異なるともあります。学校で使う考査と試験は歴史的な背景もあるようで、断言できません。同じような意味で使っています。しかし、これだけは断言できます。期末試験が終われば、生徒のみんなから「終わったー」と、そんな言葉が出るにきまっています。何とも言えぬ安堵感に包まれます。

試験が終了した清瀬中を歩いてみると様々な取り組みがなされていました。1年A組では、期末試験の振り返りを行っていました。計画の立てかた、学習の実行、実施の程度などを振り返っていました。何より大切なことは、間違えた問題の直しです。その問題の前後の範囲が理解できていない可能性がありますから、時間内に解いて終わりにしないでください。理解不足であったところの確認でもあるのです。



2年C組は、楽しみながら合意形成を図るためのトレーニングに取り組んでいました。多数決や誰かが諦めることで答えを出すのではなく、とことん話し合い、答えを出すというもの。「宇宙で母船から離れ別の船で活動していると、その船が故障で不時着。母船に戻るために、故障した船に残る15のアイテムを利用する。必要な順に番号をつけよ」という命題。とことん話し合うことを“熟議”というそうですが、これからの時代、熟議が求められます。



昼休みの校庭では“キョリンピック”が開催されていました。特色ある学校づくりの「体力向上」に関するイベントです。握力向上のためのハンドグリップや握力計コーナーには頻繁に生徒たちが来てくれます。今回は、スマイルボールという柔らかいボールを使った第1回がフリースロー大会。第2回は本日のシュート大会です。運動にプラスのイメージをもてない生徒にも参加してもらおうという企画。広報が足りなかったのか、ハンドグリップほどの関心や参加者を得ることができませんでした。第3かいは、参加者を増やす楽しい企画が用意されるとのことです。



3年生の廊下には卒業までのカウントダウンカレンダーが掲示されています。期末試験を終え、大きなイベントは卒業式を残すのみとなりました。3年生にとっては、1年間のまとめの期末考査ではなく、3年間のまとめの期末試験でありました。卒業をひかえ、3年生は、未知なる将来に対して、不安になる人も。不安になるということは、余分なことを考え過ぎとよく言いますが、言い換えれば、多岐にわたって 考査 つしているということ。成長に必要なのです。一方、新しい世界に夢を見て希望に満ちている人もいます。是非!! 夢と希望を!!



この時期は、不安と希望が 交差 する人が急増いたします。私見 ですが。